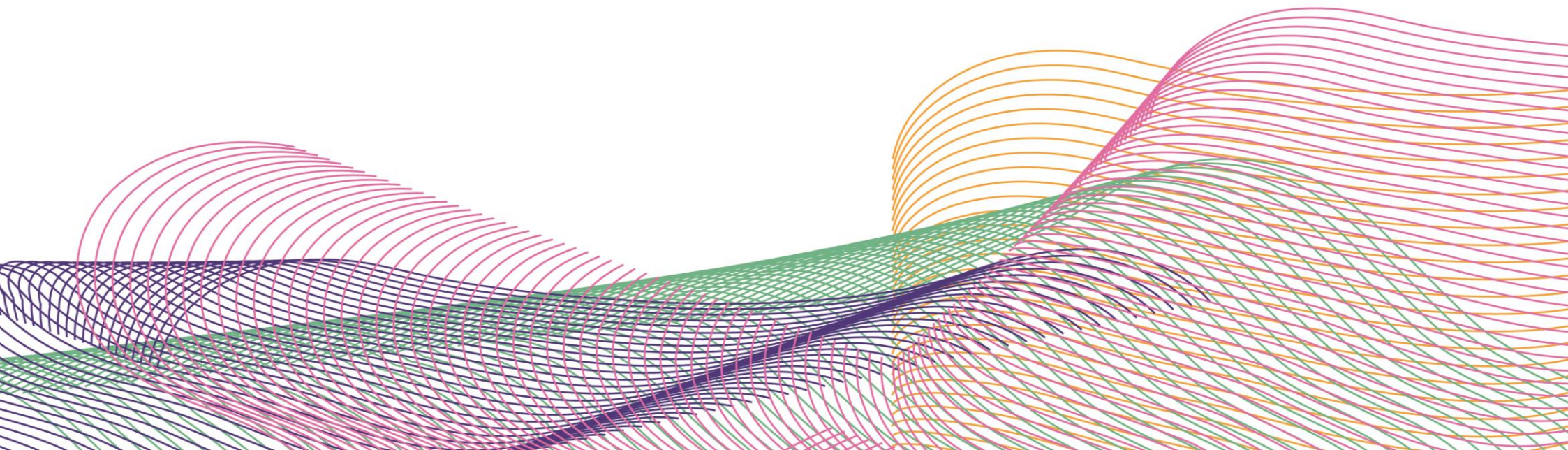


東リ株式会社

2024年3月期 決算補足説明資料

2024年5月8日





2024年3月期 決算概要

当社グループを取り巻く事業環境(2024年3月期)

国内建設市場動向

建築着工統計	新築(面積) (前年比 ※1)	リフォーム リニューアル(金額) (前年比 ※2)
住宅	▲5.7%	+11.8%
非住宅	▲8.9%	+20.8%
事務所	▲20.9%	+60.6%
店舗・宿泊施設	▲3.3%	+31.1%
学校	+28.5%	+31.9%
医療・福祉施設	▲11.8%	+29.2%

Point

- ▶ 住宅・非住宅ともに新築着工量は減少したが、1物件当りの工事金額は上昇。リフォーム・リニューアルは金額ベースで堅調に推移。
- ▶ 年間を通して、オフィスの入退去や改装に伴うリニューアル工事は好調。
- ▶ インバウンド需要の影響によりリニューアル工事は好調に推移。
- ▶ 新築は年間を通して好調に推移。リニューアルは年度前半が好調。
- ▶ 年間を通してリニューアルは好調、新築は低調に推移。

出典:国土交通省「建築着工統計調査」及び「建築物リフォーム・リニューアル調査」

※1 当社事業との連関指標として、住宅は7ヶ月、非住宅は9-12ヶ月後方ヘシフトさせた数値

※2 2023年4月~2023年12月累計の前年比

その他事業環境

地政学リスクのさらなる高まり

2024年問題への対応<建設・物流>

物価・為替・金利の変動

Point

- ▶ 国際紛争の長期化、紛争勃発に伴う海上輸送事情などを起因とする原材料価格の上昇や材料調達リスクの高まり。
- ▶ 建設インテリア業界を支える、技能士や運送ドライバーの人手不足が加速する中、提供サービスの維持・向上に向けた柔軟な対応力が問われる。
- ▶ 為替・金利の変動による物価の上昇や消費マインドの変化。

2024年3月期 連結決算概要

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

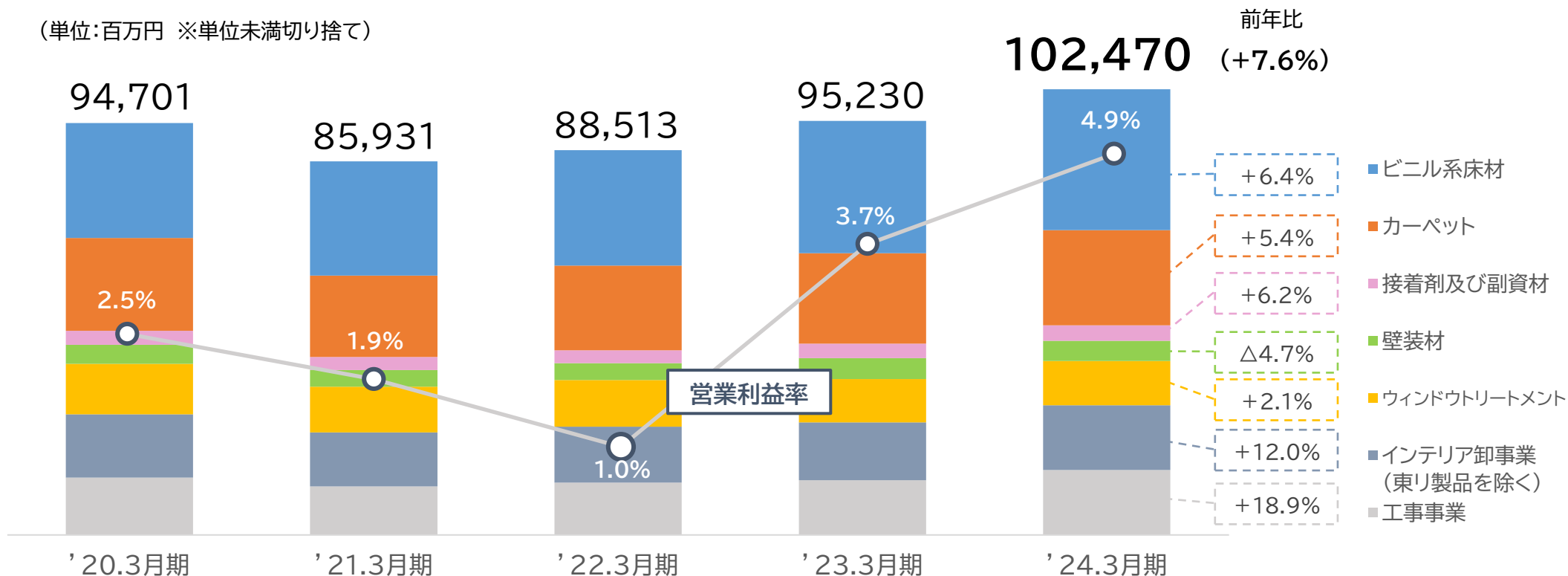
	2023年3月期	2024年3月期		
	実績	実績	前期比(%)	前期差
売上高	95,230	102,470	+ 7.6	+ 7,239
売上総利益 (売上高比率)	27,177 (28.5%)	29,915 (29.2%)	+ 10.1	+ 2,737
販売費及び一般管理費 (売上高比率)	23,646 (24.8%)	24,937 (24.3%)	+ 5.5	+ 1,291
営業利益 (売上高比率)	3,531 (3.7%)	4,978 (4.9%)	+ 41.0	+ 1,446
経常利益 (売上高比率)	3,640 (3.8%)	5,240 (5.1%)	+ 44.0	+ 1,599
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高比率)	2,562 (2.7%)	3,689 (3.6%)	+ 44.0	+ 1,126
総資産経常利益率 (ROA)	4.4%	6.0%	-	+1.6ポイント
自己資本当期純利益率 (ROE)	6.5%	8.6%	-	+2.1ポイント

Point

- 改定後の販売価格が当期間中に定着した。
- 販売数量は、新製品・高付加価値製品が伸長したものの、ビニル系床材・カーペットの汎用品は伸び悩み。
- 営業活動の活発化による販促費や人件費を中心に販管費が増加。
- 利益が大幅に増加したことにより、ROA・ROEはさらに改善が進む。

連結営業利益率 及び 製品分野別連結売上高の推移

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

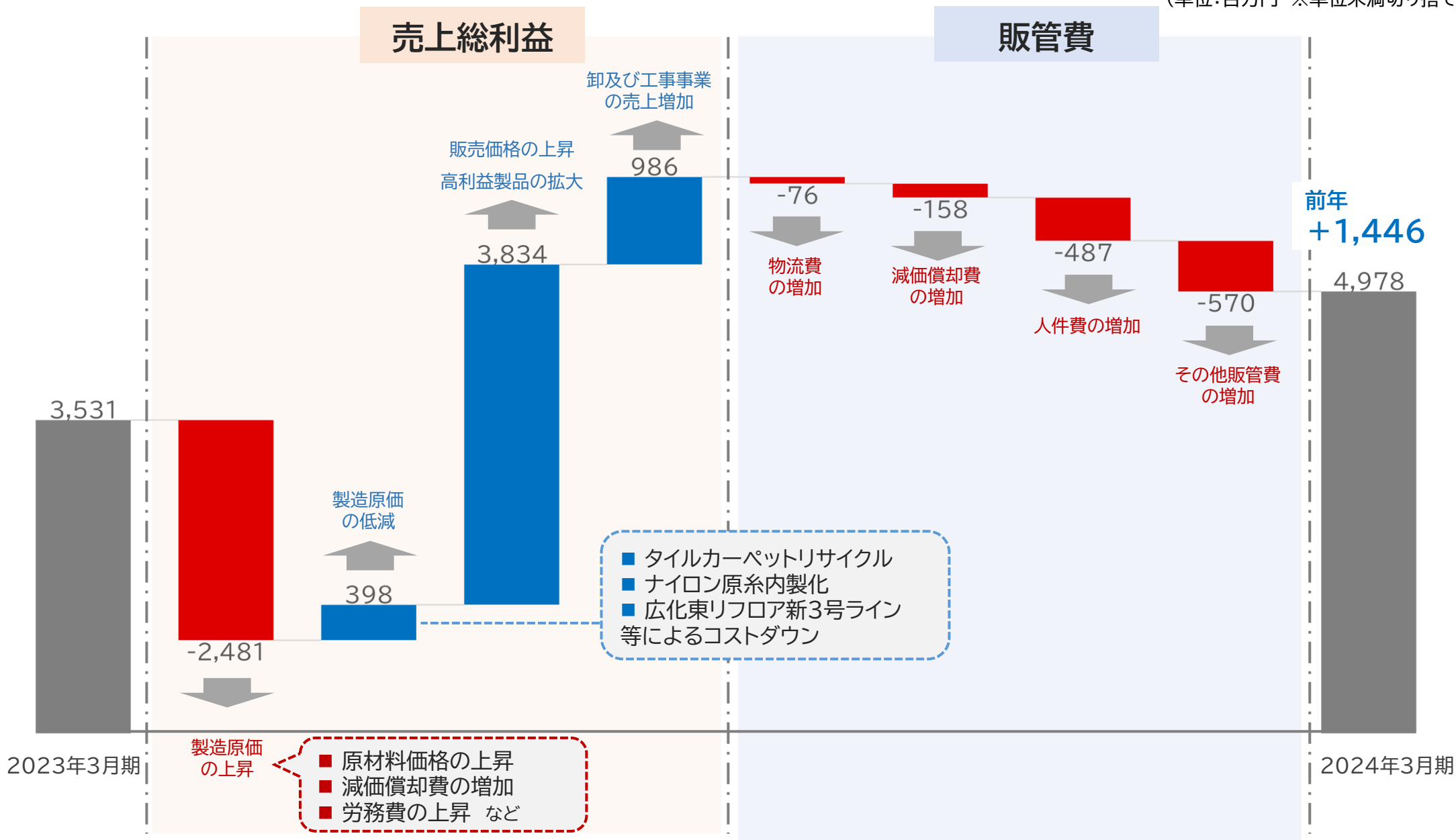


Point

- 全体 : ビニル系床材・カーペット分野における新製品や高付加価値製品で販売数量が伸長し、全体的に売上高が増加。
- ビニル系床材 : ワックスメンテナンスが長期間不要なビニル床タイル「イークリンNW-EX」や広化東リフロア新3号ラインによるビニル床シート「NS800」、12月発売の簡単リフォーム床材「LAYフローリング ピタフィー」を中心に売上高が増加。
- カーペット : 当社独自のリサイクルバックিংや自社内製原着ナイロン糸を使用した環境配慮型タイルカーペット「GA-3600 サスティバック」が販売数量を大きく伸ばし、カーペット全体の売上を牽引。
- 壁装材 : 高意匠壁紙「リアルデコ」は好調に推移したものの、低調な新設住宅市場の影響を受け、全体の数量は伸び悩む。
- ウィンドウトリートメント : 東リカーテン総合見本帳「フル」の刷新に伴う販促効果に加え、コントラクト向けカーテンが全体を牽引し、売上高は前年より増加。
- インテリア卸 : 卸事業において、エリア別戦略の推進により売上が伸長。

連結営業利益 増減要因

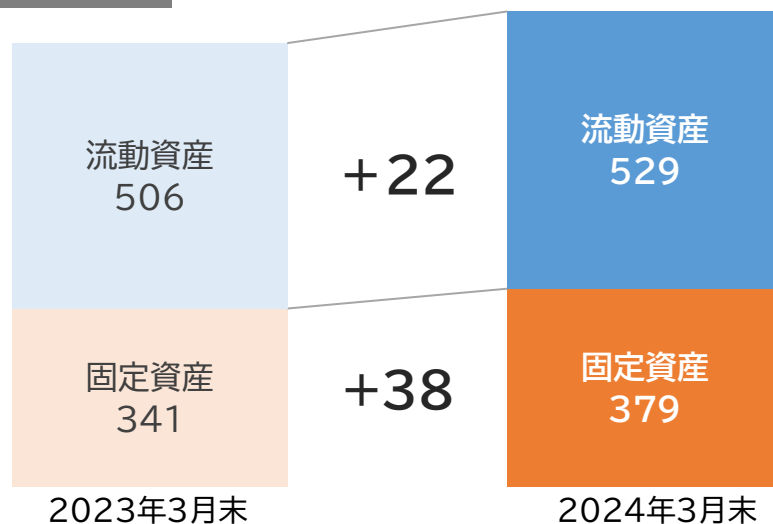
(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)



連結貸借対照表

資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)



Point

<流動資産>

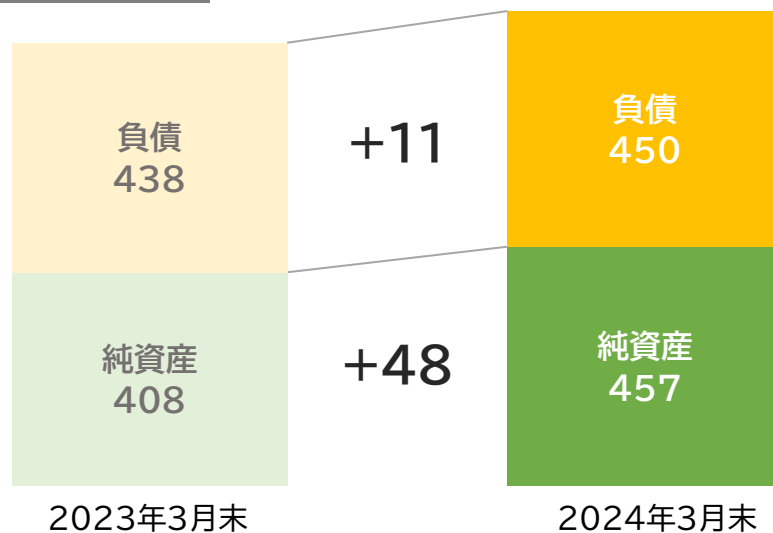
- 売上債権の増加 +21
- 売上高の増加による

<固定資産>

- 有形固定資産の増加 +15
- 滋賀事業所におけるタイルカーペットリサイクル2号プラント及び ナイロン紡糸設備2号機への投資 等による
- 投資その他の資産の増加 +23
- 投資有価証券の時価上昇 等による

負債／純資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)



Point

<負債>

- 仕入債務の増加 +4
- 建設未払金の増加 +2

<純資産>

- 利益剰余金の増加 +29



2025年3月期 業績見通し



2025年3月期 連結業績見通し

(単位: 百万円 ※単位未満切り捨て)

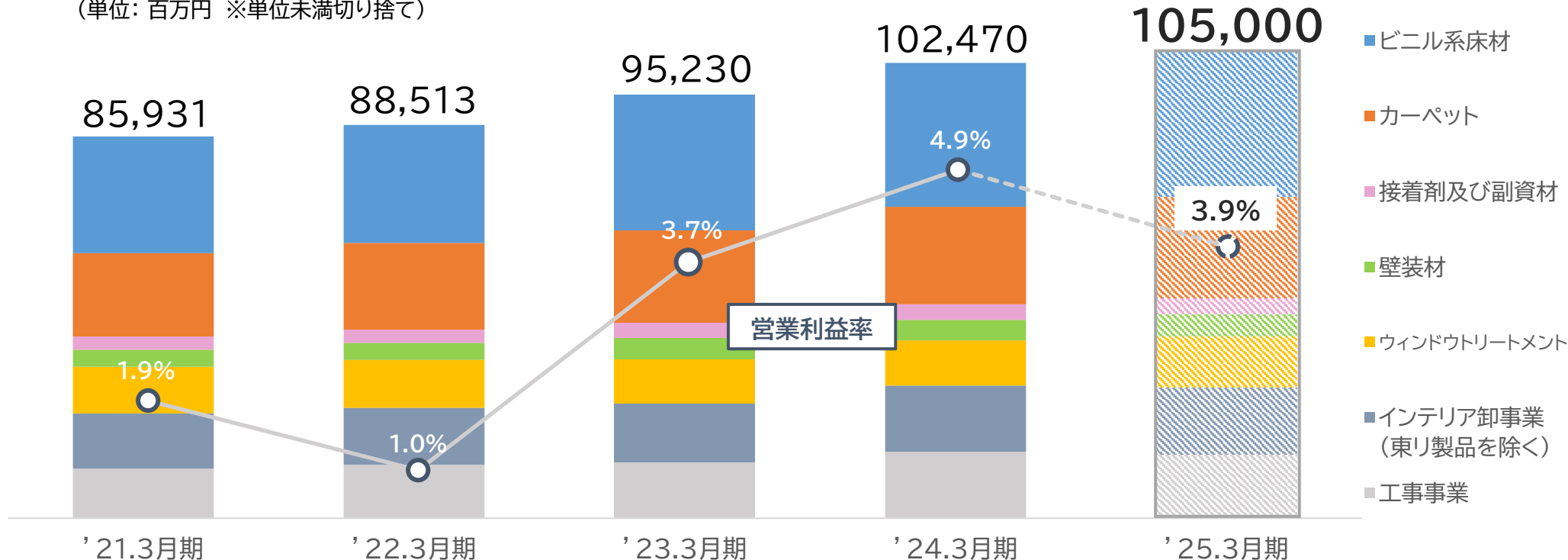
	2024年 3月期	2025年3月期			
	通期	上期		通期	
			前期比(%)		前期比(%)
売上高	102,470	47,500	+ 2.3	105,000	+ 2.5
営業利益	4,978	700	▲ 46.3	4,100	▲ 17.6
経常利益	5,240	800	▲ 44.7	4,250	▲ 18.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,689	500	▲ 42.5	3,000	▲ 18.7

Point

- 中期経営計画『SHINKA Plus ONE』最終年度となり、中期経営指標である連結売上高1,000億円以上、連結営業利益40億円以上を目指す。
- 本中計の3大投資案件(「タイルカーペトリサイクルプラント」、「カーペット用ナイロン紡糸設備」、「広化東リフロア新3号ライン」)をさらに推進し、独自性の高い新製品開発及び製造原価低減による競争力強化を図る。
- コスト面では、大型設備投資の進展による減価償却費、次年度以降の売上増にも寄与する新製品発売や大型製品改廃による単年度見本帳費、2024年問題対策に伴う物流費、ベースアップを含む人件費等の増加を見込む。

連結営業利益率 及び 製品分野別連結売上高の見通し(2025年3月期)

(単位: 百万円 ※単位未満切り捨て)



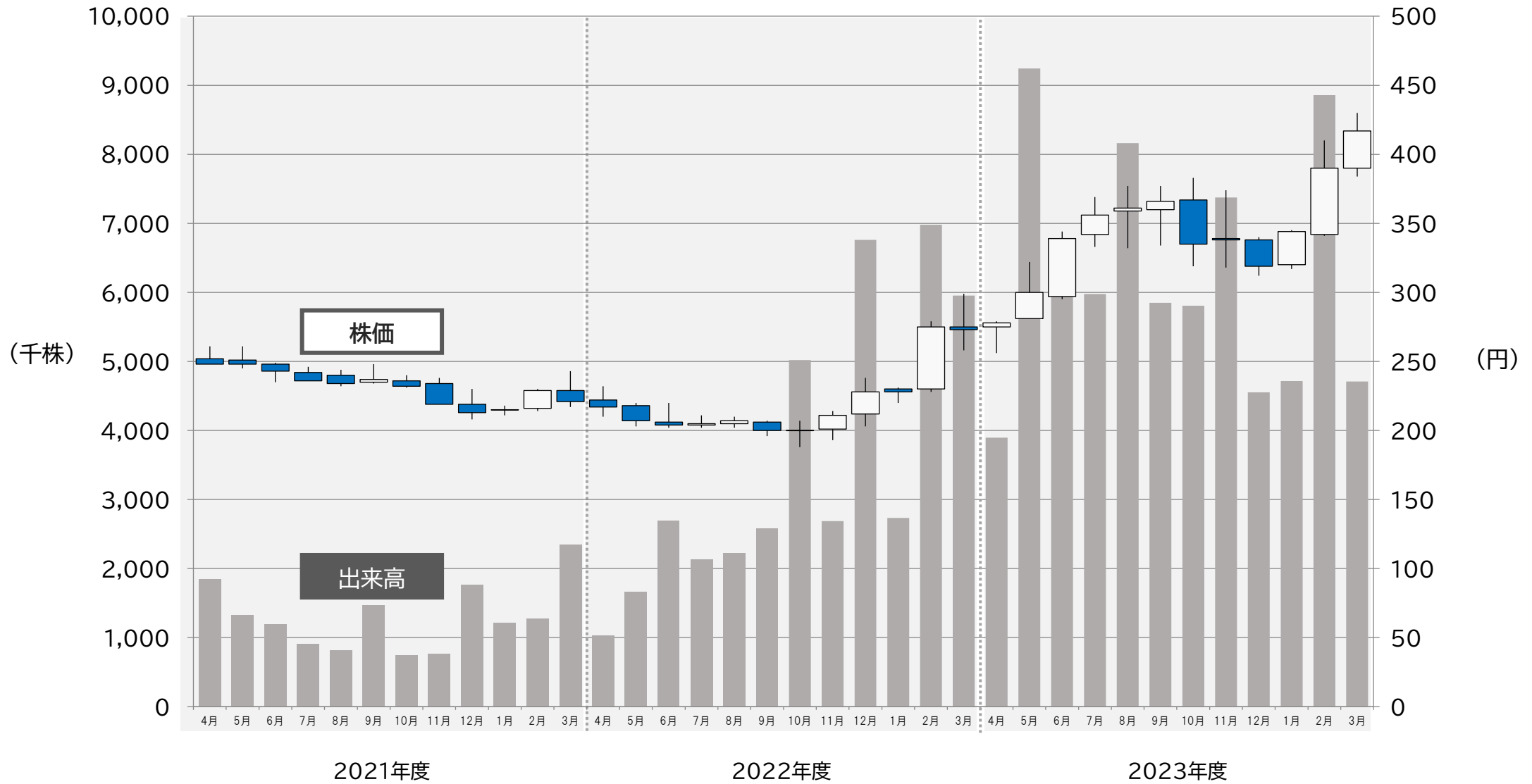
Point

- 今年度改廃予定のビニル床シートなどの新製品や一般消費者にも認知が広がり好調を維持する「LAYフローリング・シリーズ」を中心とした販促活動に注力し、販売数量の拡大を目指す。
- 「GA-3600 サスティブバック」をはじめとした環境配慮型製品のさらなる浸透を図る。
- 5月発売のハイグレードな新壁装材シリーズ「東リ グランウォールコレクション」の販促活動を強化し、壁装材のさらなる拡販を目指す。

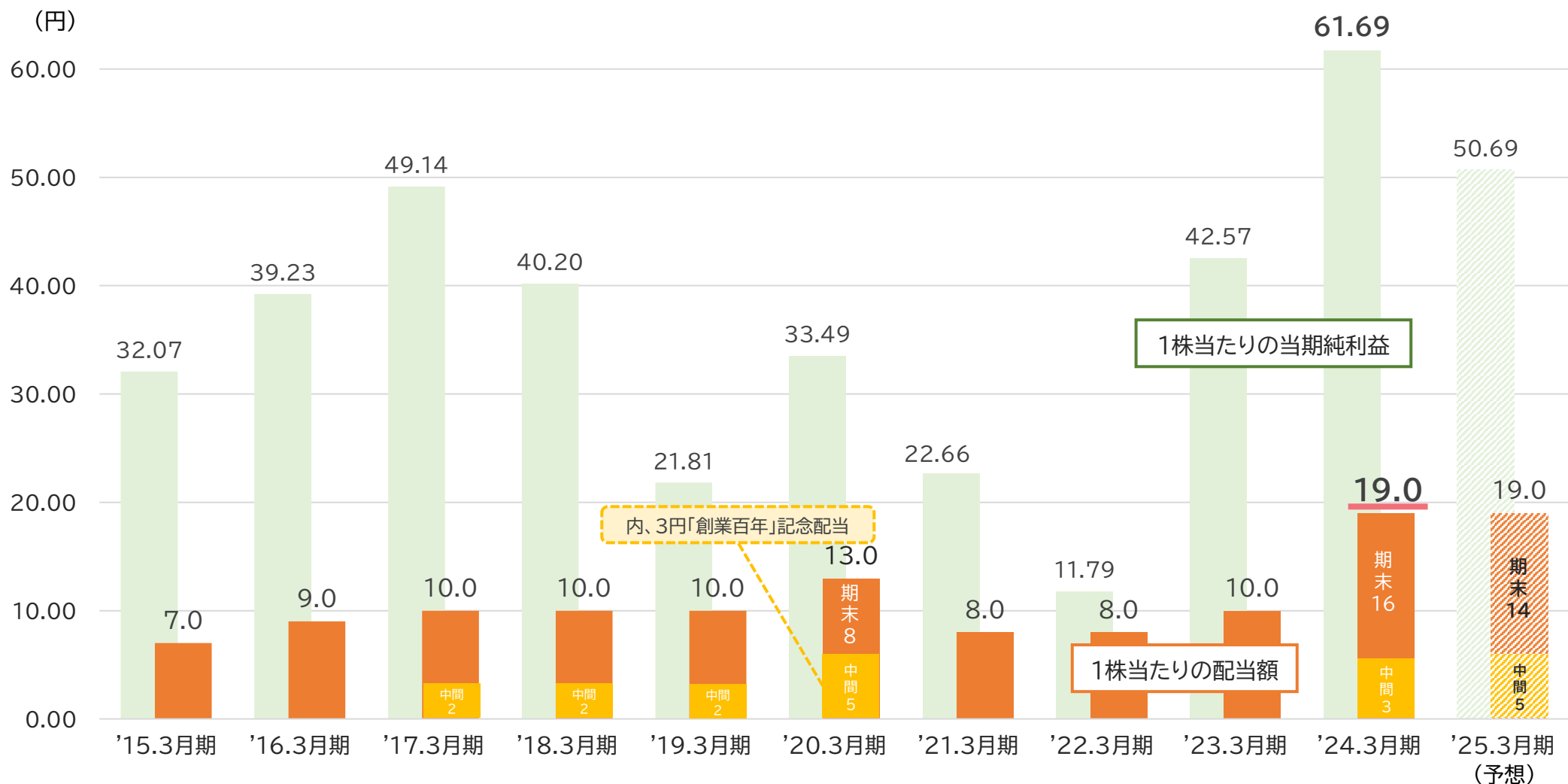


株式関連情報

株価・出来高(月合計)の推移



配当の状況(連結ベース)



配当性向	21.8%	22.9%	20.4%	24.9%	45.8%	38.8%	35.3%	67.9%	23.5%	<u>30.8%</u>	37.5%
DOE (純資産配当率)	1.6%	1.9%	1.9%	1.8%	1.7%	2.2%	1.3%	1.3%	1.5%	<u>2.6%</u>	-

中期経営計画のキャピタルアロケーション計画に基づき、
4ヶ年で合計約35～40億円の株主還元を計画
('22.3月期～'24.3月期まで3ヶ年で、約27億円の株主還元を実施)

ご清聴ありがとうございました



IRに関する
お問い合わせ先

東リ株式会社
経営企画部

e-mail

toli_ir@toli.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。